

【文章記述について】

今年度はコロナウイルス対応で様々な教育活動に制限がかかる中、保護者のみなさまからのご意見やご指摘、また、励ましのお言葉を多数いただき、本当にありがとうございました。

我々教職員一同、常に子供たちのことを第一に考え、取り組みを進めています。また、教職員は共通認識のもとで、「チームあおやま」として組織的な対応に努めています。今回のアンケートについて、質問内容によっては、回答がしにくいというお声をいただきました。次年度にアンケートの質問内容、回答項目など見直しを進めてまいります。

タブレットの件についても多くのお声をいただきました。吹田市の定める規定に則り、GIGAスクール構想のもと、子供たちの学習にとって有益なものになるように教職員全員で活用方法について研修、実践に努めてまいりました。デジタルシチズンシップ教育の考え方のもと、学校と家庭で協力して端末の有効活用についてを進めていければと考えております。なお保護者対象のオンライン参観や懇談会については、吹田市の使用規定で実施することはできません。その点をご理解ください。

今後も、保護者の皆様のご意見を大切にしながら、本校の教育活動をよりよいものにしていきたいと考えます。子供たちの心豊かで健やかな成長を促すことのできる学校体制づくりに努めるとともに、すべての保護者のみなさまが、青山台小学校の児童を見守っていただけるよう、ご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

◇学校行事に関すること

学校行事の保護者参観について複数のご意見をいただきました。コロナ禍も3年目となり、秋以降屋外についてはマスク着用を含め制限が緩和されましたが、屋内についてはまだ制限が残っている状況です。3学期も、分散参観等でご不便をおかけしています。次年度以降状況は更に改善していくことが予想されますが、市教育委員会と連携をとりながら、その時にできる対応をとっていきたいと考えております。

◇ビデオ撮影について

音楽会の様子を撮影させてほしいのご意見がありました。プリントでもお知らせしました通り、児童の生の演奏を聞いていただきたい、多数のカメラが向けられることで児童の集中が乱れることなど、コロナの感染対策とは関係なく、芸術的行事として撮影はご遠慮させていただいております。ご理解をよろしく願います。またこの2年間のTeamsでの動画配信は保護者人数を制限したことによるものですので、次年度制限がなくなれば、配信する予定はありません。

◇学校全般に関すること

単学級の学年の1クラスの人数が多いのではないかとのご意見がありました。確かに、人数が多いことは、教員が1人1人の子供に対してきめ細やかな声掛け等がしにくくなるという側面はあります。ただ法令で児童数に割り当てられる教職員数は決まっています。もちろん問題点は認識しておりますので、次年度は校内体制でその点は考えていきたいと思っています。

あゆみについてですが、2学期に成績懇談の位置づけで個人懇談会を実施し、所見はなくしております。3学期はこれまで通り、お子様の1年間の成長を文章で表記していきます。個人懇談を3学期もという意見をいただきましたが、学年末の時期に実施の予定はありません。次年度につきましては、改めて検討のうえ、お知らせをさせていただきます。

児童同士の関係はもちろん、教員と児童の間も常に個人の尊厳、人権を意識した関係づくりは非常に大切です。教員が人権意識を高く持ち、いじめ等の予防・早期の発見につとめ、その際は素早い組織が行えるよう、体制作りのほうも引き続き進めてまいります。

学校の様子をお知らせする方法については、これまで通り、学校だより、学年だより、ホームページ、メール配信など様々なツールを用い発信に努めます。来年度につきましても今年度の反省を踏まえ、取り組んでいきます。

【児童アンケート】

◇集計結果から

概ね肯定的な回答の割合が高かったのですが、「学校に行くのが楽しい」「クラスは安心できる」の項目に否定的な回答を選んだ児童が学年に一定数いることに注目し、学校運営に生かしていきたい。

「授業はわかりやすく楽しい」「授業でわからないことについて先生に聞きやすい」や「授業で自分の思いを話すことができている」の否定的な回答をする児童が高学年になるほど割合が少しずつ増加している。担任のみならず複数の教員で児童に関わることで、学校全体で児童の声を拾い、効果的な指導にいかしていきたい。

学校行事が楽しいという項目は肯定的な回答が非常に多い。コロナ禍の制限も少しずつ緩和され、行事の実施も以前の形に近くなってきた。今後も子供たちにとって学びのある魅力ある行事を実施していくことで、自己肯定感を高めていきたい。

「宿題や持ち物忘れ」についてできていないという回答がどの学年も2割から3割近くあり、引き続き改善していかなければならない現状がある。宿題や持ち物をちゃんと揃えて学校に登校するという児童の意識は高いものの、そうならない実態がある。担任等が児童の実態に応じて伝達方法を考え、確実に伝えるとともに、ご家庭の方で声掛け、確認等のご協力をお願いしたい。

「学校で社会のルールを守ることや命の大切さ学んでいる」の項目は肯定的な回答が昨年度より多かった。引き続き、いじめは決して許さない姿勢を明確化し、道徳の時間はもとより、教育活動全般を通して人権教育に取り組んでいく。